

5. 最後に

施設利用や資金援助を含めて、ポストドク、大学院生レベルの研究者を交流育成させるシステムがあることは非常にうらやましい限りです。このようにして全米あるいは世界各地から集まった若手研究者は、再び各々の研究所に散って行った後、互いに情報交換し、切磋琢磨しながら次代の科学を背負う第一線の科学者へと育てて行くのだと思います。NCAR 自身も積極的に外部から人を受け入れる方針（もちろん給料込みで）で、どんどん若手研究者を募集していました。内部のいろいろな資料やコンピューター資源も極めてオープンで、とにかくNCAR をいろんな人が利用することによって、またNCAR 自身も発展していくというシステムになっているようです。このように、外部からの利用者や研究者の交流育成のためのセクションが充実していることは特筆すべきことでしょう。私も参加して各国の大気化学のいろんな分野の同世代の人々と接してみて、いろんな刺激を受け、また世界も広がったような気がしました。もはや一人でこもって黙々と研究する時代ではない以上、い

かに多くの研究者と情報交換を行いながら研究を進めて行くかがこれからの鍵だと思います。

6. 謝 辞

このコロキウムに応募する際に、快く推薦状を書いて頂いた九州大学の宮原三郎教授と岡村存前気象研究所所長及び気象研究所物理気象研究部牧野行雄室長に感謝いたします。またコロキウムに参加するに当たって有益な助言をいろいろ頂いた気象研究所予報研究部青梨和正研究官に感謝いたします。渡航の手続き及び研究交流集会参加認定のいろいろな手続きに気象研究所総務課、気象庁企画課の御協力を頂きました。これらの方々に謝意を表します。

文 献

Solomon, S. and R.R. Garcia, 1983: On the Distribution of Nitrogen Dioxide in the High-Latitude Stratosphere. *J. Geophys. Res.*, **88**, 5229-5239.

日本気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所	備 考
Quardrennial Ozone Symposium	1992年6月4日 ～13日	IAMAP/IOC	アメリカ Virginia 大学	Vol. 38, No. 4
日本水文学会 1992年度学術大会	1992年6月20日 ～21日	日本水文科学会	筑波大学 第一学群棟	
第15回極域気水圏 シンポジウム	1992年7月8日 ～9日	国立極地研究所	国立極地研究所 講堂	Vol. 39, No. 3
第4回水資源に関するシ ンポジウム	1992年8月3日 ～4日	日本学術会議、気象学会 など	日本学術会議	Vol. 38, No. 9
日本気象学会 1992年度春季大会	1992年5月26日 ～28日	日本気象学会	工業技術院つくば 研究センター（つくば）	
第11回雲と降水に関する 国際会議	1992年8月17日 ～21日	IAMAP/ICCP	カナダモントリオール McGill 大学	Vol. 38, No. 4
第13回ニュークリエー ションと大気エアロゾル に関する国際会議	1992年8月24日 ～28日	IAMAP, CNA, ICCP	アメリカユタ州 Utah 大学	Vol. 38, No. 1
国際雪氷学シンポジウム 「雪と雪に関する諸問題 シンポジウム」	1992年9月14日 ～18日	IGS, 日本雪氷学会, 新潟県, 長岡市	長岡産業交流会館 (長岡)	
集中豪雨と洪水に関する 国際シンポジウム	1992年10月5日 ～9日	中国国家科学技術委員会 水利局, 気象局	中国安徽省黄山市	Vol. 39, No. 3
日本気象学会 1992年度秋季大会	1992年10月7日 ～9日	日本気象学会	教育文化会館（札幌）	
第29回自然災害科学総合 シンポジウム	1992年11月4日	重点領域「自然災害」総 合研究班	秋田市文化会館（秋田）	
第11回日本自然災害学会 学術講演会	1992年11月5日 ～6日	日本自然災害学会	秋田市文化会館（秋田）	
第12回風工学シンポジウ ム	1992年12月3日 ～4日	シンポジウム運営委員会	建築会館ホール（東京）	Vol. 38, No. 12